

目次CONTENTS

第1章 子ども保健序論	1
1. 子どもの保健・子どもの保健学の概念	2
A. 子どもの保健	3
B. 「子ども」についての考え方—子どもの特徴—	4
C. 子ども保健・子ども保健学の内容と目標	5
2. 子ども保健の現状	5
A. 人口動態	5
コラム 特殊合計出生率とは	6
B. 子ども保健の現状	8
C. 子どもの健康面に見られる課題	11
3. 今後取り組むべき課題	12
A. 子どもの健康管理体制	15
B. 子どもの健康を阻む要因の排除	15
C. 子どもの心理環境の改善—心の問題—	16
D. 母親への育児支援	17
E. 子どもの福祉施策の向上	17
4. 子どもの健康に関与する因子	17
A. 健康状態にかかわる因子	18
B. 内的因子	18
C. 外的因子	18
5. 子どもの健康と疾病に対応する家庭や社会の役割	19
A. 素質面への対応	19
B. 環境面への対応	20
コラム ダイエットと補助食品	21
C. 年齢面への対応	24
D. 関係者への連携	24
第2章 発育	25
1. 発育を理解するために	26

A.	定義と用語	26
B.	発育期の区分	27
C.	発育の経過と速度	28
D.	発育の評価と測定法	31
E.	発育の原則	37
F.	発育に影響する因子	39
	コラム バーカー仮説とDOHaD学説 (成人病胎児期発症説)	40
2.	身体発育	42
A.	各発育期における身体発育の特徴	42
B.	身体発育の内容	46
3.	各器官の成長と発達	56
A.	骨格筋の成長と発達	56
B.	呼吸器の成長と発達	56
C.	循環器の成長と発達	57
D.	免疫系の成長と発達	59
E.	造血系の成長と発達	60
F.	消化器の成長と発達	61
G.	泌尿器の成長と発達	62
H.	エネルギー消費と体温調節	63
I.	内分泌系の成長と発達	63
J.	神経系の成長と発達	65
K.	運動の発達	67
L.	精神機能	70
M.	行動発達	71
	コラム いろいろな反射	75
N.	発達の評価	76

第3章 子どもの栄養と食生活 77

1.	子ども栄養の意義	78
A.	栄養の不足と過剰	78
B.	食習慣の問題	78

	C. 食事・食生活への関心の育成	79
2.	子どもの時期の食事摂取基準	79
3.	乳児栄養	81
	A. 母乳栄養	82
	B. 人工栄養	88
	C. 混合栄養	89
4.	離乳	90
	A. 離乳の意義と必要性	90
	B. 離乳の進め方の目安	91
5.	幼児期の栄養	94
6.	学童・思春期の栄養	95
7.	幼児期以後の食事・食生活	95
	A. 食事について	95
	B. 食習慣について	96
	C. 家庭での努力目標	100
	D. 学校給食の意義	102

第4章 子どもの心理、知能、情緒、社会性の発達とその保健 107

1.	意義	108
2.	人格の発達	108
	A. 人格の発達と母子関係	109
	B. 人格の形成	109
	コラム 愛情遮断症候群	109
	C. 情緒の発達	111
	D. 対人認知および社会性の発達	113
3.	児童虐待	115
	A. 児童虐待とは	115
	B. 児童虐待の種類	115
	C. 虐待による身体症状と精神症状	116
	D. 加害者と原因	116
	E. 児童虐待への対応—早期発見と予防—	116
	コラム 反応性愛着障害	117

4.	心因によって起こる子どもの疾病	118
A.	子どもの心身症	119
B.	心理・社会的要因が関連する子どもの問題行動	123
C.	神経性食欲不振症・摂食障害	126
D.	子どものうつ病と自殺	126
5.	子どものストレスとその対応	127
A.	子どものストレスとその原因	127
B.	子どもへの対応の仕方	128
C.	親・家族への対応	128
D.	保健室の在り方	129
E.	養護教諭の役割	129
6.	社会的問題	130
A.	いじめ	130
B.	不登校	132
C.	シンナー・麻薬などの薬物乱用	133
D.	携帯電話	134
7.	家庭・学校・地域の役割	
	—子育てネットワークづくり—	134

第5章 日常生活と環境 137

1.	子どもの健康と日常生活	138
A.	食事	138
	コラム 著者が経験したアトピー性皮膚炎の 治療にまつわる事例	140
B.	睡眠	142
	コラム “夜泣き” ～小児科当直医の経験談～	143
C.	衣服	144
D.	遊び	147
E.	小遣いや所有物	150
F.	排尿・排便	153
G.	入浴	154

H.	うがい	154
I.	歯磨き	154
J.	手洗い	155
K.	対人関係	155
L.	学校	155
M.	子どもの環境	158
N.	テレビ、パソコン、ファミコン、携帯電話などの 遊びに伴う問題	160
2.	子どもの保健にかかわる役割分担	160
3.	家庭と地域、学校、ネットワークづくり	161
4.	子育て不安	162
5.	かかりつけ医	164

第6章 集団の保健 167

1.	集団保育の保健	168
A.	集団保育の意義と保健対策	168
B.	集団保育の保健管理	170
	コラム 新エンゼルプラン	171
2.	学校保健	177
	コラム 保育所や幼稚園における治療	177
A.	保健教育	179
B.	保健管理	180
C.	特別支援学校、特別支援学級	182
	コラム 特別支援教育	182
D.	障害児の保健指導	183
3.	障害児	184
A.	障害児の定義	184
B.	障害児の分類	185
C.	心身障害児とその対応	185
	コラム 注意欠陥多動性障害(ADHD)	190
	コラム 震災と障害児	191
D.	慢性疾患児への対応	192

第7章 主な疾病	197
1. 感染症	198
A. 子どもの感染症の変貌	198
B. 感冒症候群	199
C. 各種ウイルス感染症	200
D. 細菌感染症	208
E. 原虫感染症	212
2. 染色体異常	212
3. 先天代謝異常 (Inborn errors of metabolism)	214
A. フェニールケトン尿症	214
B. 先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)	214
C. その他の先天代謝異常	215
4. 栄養の障害	215
A. 肥満	215
B. やせ	216
C. 体重増加不良	216
D. 脱水症	216
E. ビタミン欠乏症	217
F. 微量元素の欠乏症	217
5. 糖質の代謝異常による疾患	217
A. 糖尿病	217
B. 低血糖症	218
6. 成長や内分泌の異常	218
A. 低身長	218
B. 巨人症	218
C. 性発育異常	219
7. 生体防御機能と免疫不全症	220
8. アレルギー性疾患	221
A. 気管支喘息	221
B. アトピー性湿疹(皮膚炎)	221

9.	膠原病	222
	A. 川崎病	222
10.	消化器の疾患	223
	A. 先天異常	223
	B. 先天性肥厚性幽門狭窄症	223
	C. 腸重積	223
	D. 下痢	224
	E. 腹痛	224
11.	血液の病気	225
	A. 貧血	225
	B. 出血性疾患	225
	C. 白血病および悪性リンパ腫	226
12.	固形腫瘍	228
	A. 腹部腫瘍	228
	B. 脳腫瘍	229
	C. その他の固形腫瘍	229
13.	心臓の疾患	230
	A. 先天性心疾患	230
	B. 後天性心疾患	231
14.	腎臓の疾患	232
	A. 腎炎	232
	B. ネフローゼ症候群	232
	C. 尿路感染症	232
15.	脳や神経の疾患	233
	A. 痙攣を来す疾患	234
	B. 発育の遅れを来す疾患	235
	C. 意識障害を来す疾患	235
	D. ライ症候群	235
16.	筋肉や関節の疾患	236
	A. 筋萎縮症	236
	B. 先天性股関節脱臼	236
	C. 斜頸	236

17. 精神疾患	236
A. 精神発達遅滞児	237
B. 神経症	237

第8章 主な症状と救急処置 239

1. 緊急を要する症状	240
A. 心拍停止	240
B. 急性心不全	241
C. ショック	242
D. 呼吸困難	242
E. 意識障害	243
2. 一般的な症状	244
A. 発熱	246
コラム 主な熱型	247
B. 咳嗽・喘鳴	248
C. 嘔吐(吐血)	251
D. 腹痛	254
E. 痙攣	255
F. 頭痛	258
G. 運動麻痺	259
H. 失神	260
コラム 「頭痛」は、医師の「頭痛の種」	260
I. チアノーゼ	261
J. 不整脈	262
K. 胸痛	262
L. 頻尿、排尿痛、乏尿、無尿、血尿	263
M. 蒼白	264
N. 出血傾向	264
O. 四肢痛、関節痛	265
P. 発疹	266

第9章 子ども保健に関わる法規と母子保健行政 269

1.	子ども保健に関わる法規	270
A.	児童福祉法	270
B.	母子保健法	271
C.	地域保健法	272
D.	戸籍法	273
E.	母体保護法	273
F.	予防接種法	273
G.	結核予防法	276
H.	感染症の予防および感染症の患者に 対する医療に関する法律(感染症法)	276
I.	学校保健安全法	277
J.	発達障害支援法	277
K.	児童虐待の防止等に関する法律 (児童虐待防止法)	278
2.	その他の母子保健事業	278
A.	未熟児養育医療	278
B.	小児慢性特定疾患治療研究事業	279
C.	自立支援医療(育成医療)	279
3.	これからの母子保健対策	279

第10章 事故とその対策 283

1.	子どもの事故	284
2.	事故の定義	284
3.	子どもの事故死亡	285
4.	子どもの事故の種類と原因	287
5.	子どもの事故の国際比較	292
6.	子どもの事故防止のプログラム	293
7.	事故の救急処置	293
A.	異物誤飲	293
B.	気道異物	298

C. 溺水	299
D. 熱傷	303
E. 頭部外傷	306
F. 眼、耳、鼻の外傷と異物	308
G. 熱射病(熱中症)	309
H. 凍傷	310
I. 動物咬刺傷	310
J. 胸部外傷	311
K. 骨折、脱臼、捻挫	312

索引	314
----------	-----